

プロローグ

♪ 『カントリーロード』

暗転

音楽下がる ↓ 鳥の囀り。

声 「ふ、ふえつくしゅい！」

明転

少年 「お目覚めですか、お嬢さん」
少女 「へ……？」

少女が目を覚ます。そこは大きな木の下。
目の前には、ウサギ耳の少年。

少女 「え？ ……ここ？ ……どこ？」
ハク 「不思議の国だよ」
少女 「ふしぎのくに……？」
ハク 「そう、ワンダーランド！」
少女 「え、と………なんで英語に言い直したの？」
ハク 「オシヤレかなって」
少女 「あ、そう……」
ハク 「気分はどう？」
少女 「わ、ウサギの耳？え、コスプレ？てかあなた誰？」
ハク 「怖がるな。ワタシはそなたの味方だ」
少女 「怖い怖い近寄らないで」
ハク 「口を開けて、これを早く」
少年 「なにこれ」
ハク 「この世界のものを食べないと、そなたは消えてしまう」
少女 「いや、だからなにこれ！」
ハク 「大丈夫、食べても豚にはならない。ふくよかになるだけだ」
少女 「いやいやちよつと」
ハク 「噛んで飲みなさい」
少女 「んーんー（飲み込む）」
ハク 「もう大丈夫」
少女 「まっずーーー！」
ハク 「ね？」

少女 「ね？じゃないから！意味分かんない、なんなのよ、あんた！！」
ハク 「ワタシの名は、白ウサギ」
少女 「は？」
ハク 「いやだから、なまえ。（自分を指して）白ウサギ」
少女 「嘘だろオイ」
ハク 「そなたに、この世界を救ってもらいたいのだ」
少女 「……この世界って？」
ハク 「だからワンダーランドだってば」
少女 「え無理」
ハク 「ソナタノナハ？」
少女 「いやだから聞いてよ人の話」
ハク 「ソナタノナハ？」
少女 「てか、ソナタノナハってどういう意味？」
ハク 「え、だから……」
少女 「あ、もしかして……」
2人 「君の名は！」

♪『前前世』

照明、劇的に

ピンもハの字でグワングワン

前奏のタタタタターンのところ、少女がぶった切る。

少女 「違ーーーうー！」
ハク 「え？」
少女 「違うよこれジブリじゃないから！」
ハク 「あれ？でも、ほら神木くん……」
少女 「神木くんでも駄目だから！タイトル思い出して！『ジブリインワンダーランド』！ジブリ以外の作品、持ち出し禁止！！」
ハク 「えー、そうなのー？じゃあ、ま、いーや、名前なにー？」
少女 「急に雑！」
ハク 「早く進めようよー、もう開演から5分は経ってるよー。袖、狭いんだし、他のキャラどんどん出してかないとさー、おこられるよー」
少女 「わかってるわよ。名前言えばいいんでしょ？（咳払い）私の名前は、……」
声 「アリスだよ」
ハク 「！？」

急にチェシヤ猫出てくる。ハク、木陰に隠れる。

少女 「え…、早速なんか出てきた。何、今度は猫耳？（ハクに）ねえ、ちよつと、このおぼあ…あれ？いない…」

猫 「おまえニヨニヤマエはアリスさ」

少女 「アリス…？」

猫 「今からおまえニヨニヤマエはアリスだ。いいかい、アリスだよ。分かったら返事をするんだ、アリス！」

少女 「は、はい！」

猫 「ハク」

ハク 「（木陰から現れ）お呼びですか？」

少女 「ハク？」

猫 「こニヨ子をハートニヨニヨ王様のところまであんニヤイしニヤ」

ハク 「はい…名はなんという？」

少女 「え、だから、…あ、アリスです」

ハク 「では、アリス、来なさい」

少女 「あの…」

ハク 「無駄口を聞くな。私のことは白ウサギ様と呼べ」

少女 「ぶっ」

ハク 「なにがおかしい」

少女 「え、本気？本気で白ウサギ様？」

ハク、少女の手を取り、

ハク 「来い！」

少女 「わ、ちよつと…」

猫 「いいかい、ハク、ニヨ王様とニヨ約束、忘れるニヤよ」

ハク 「……」

チエシヤ猫、消える。

少女 「約束…？」

ハク 「（手を離して）すまない」

少女 「え？ いや、あの…白ウサギ様…」

ハク 「（フツと微笑んで）ハクでよい」

少女 「ハク」

ハク 「最も、それもまことの名ではないだろうけど」

少女 「どういうこと？」

ハク 「先程現れた大きな猫、」

少女 「あ、うん大きな猫」

ハク 「彼女は、ヒトの名を奪い、そのものを支配する能力を持っているんだ」
少女 「何それ。ってことは、私の名前も、アリスじゃないってこと？」

ハク 「おそらく」

少女 「ふーん、そっか」

ハク 「怖くないのか？」

少女 「大丈夫、これ、夢だから」

ハク 「え？」

少女 「いや、だから、夢」

ハク、いきなり、少女を殴る。

少女 「いつったああああ！なにすんのよ！」

ハク 「バカなことを言うな！ そんな恐ろしい事を口にする、この世界は本当に
そうなってしまうぞ！」

少女 「え、あ、うん」

ハク 「だめだめだめ！そんな夢オチなエンディングで終わらそうとしちゃ駄目だっ
って！それしたら、もうこの先どんな展開が待ってても、驚かないじゃん！』ど
うせこれ夢でしょ？』ってなるじゃん！そんなの、お客さんも興ざめじゃん！
君、その責任、一人で取れるの？取れないでしょ！」

少女 「……取れない」

ハク 「じゃ、もう言わない？」

少女 「言わない」

ハク 「よし」

少女 「……質問、いいですか？」

ハク 「はい、なんででしょう？」

少女 「そうなるとき、私はさ、これからさ、どうしたらいいの？」

ハク 「君はどうしたい？」

少女 「え、うーん、そうだなー、あ」

ハク 「何？」

少女 「名前を変えたい」

ハク 「名前？」

少女 「そう、名前。だって、私、あの猫に、本当の名前を盗られちゃったんでしょ？
アリスってのも、なんか気に入らないしさ。折角冒険の始まりなんだから、
先ずは、主人公の名前を決めなくちゃ」

ハク 「主人公？」

少女 「（自分を指して）私。何？間違ってる？」

ハク 「いや、間違ってる。じゃあ、早速、考えようか」

少女 「もう決めたよ。千尋」

ハク 「え？」
少女 「だって、あなたハクでしょ？」
ハク 「うん」
少女 「じゃあ、千尋に決定」
ハク 「どうして？」
少女 「ハクといたら、千尋でしょ？」
ハク 「どういうこと？」
少女 「え、なんかわかんないけど。ぴんときた」
ハク 「そうか…では、千尋、行こう」
少女 「うん、どこへ？ あ、女王様のところだっけ」
ハク 「ううん。赤ずきんちゃんち」
少女 「へ？」

続きは、舞台で！